学校だより
第201号

函館高専

平成29年12月

～7月-11月の主な学校行事，高専ロボットコンテスト等各種コンテスト，
春潮寮通信，キャリアセンターの紹介，国際交流センターの紹介～

独立行政法人国立高等専門学校機構
函館工業高等専門学校

平成 29 年 12 月
201 号
目　次

ｐ１　体育祭，一日体験入学会

ｐ２　高専体育大会（地区大会，全国大会，ラグビー大会）

ｐ４　各種講演会，保護者懇談会

ｐ６　アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト 2017

ｐ10　高専祭「Go! Go!」特集

ｐ14　北海道地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト
第 28 回全国高専プログラミングコンテスト

ｐ15　春潮寮通信！

ｐ16　キャリアセンター特集

ｐ18　国際交流センター特集

ｐ19　函館工業高等専門学校地域連携協力会コーナー

体育祭

6 月 20 日（火），夏の訪れを感じさせる明るい太陽の下，平成 29 年度体育祭が開催されました。徒競走やクラス対抗・学科対抗のリレー種目，綱引き，大縄跳びなど 10 種目で真剣勝負の熱戦が繰り広げられ，勝利や健闘への歓声，出遅れたチームへの励ましの応援など，和気あいあい，ほのぼのとした雰囲気で進行しました。競技の結果，優勝学科は社会基盤工学科，優勝クラスは４年社会基盤工学科となり，それぞれに伝統のトロフィーおよび賞状が授与されました。

（記：学生委員　小玉　齊明）

～集合写真～

～競技の様子（上：大縄跳び　下：リレー）～

一日体験入学会

８月５日（土）と６日（日）の２日間にわたって，「一日体験入学会」を開催しました。参加する中学生の皆さんに，文字通り函館高専に「体験入学」していただき，函館高専がどのような学校かを実感していただくイベントです。

それぞれの日の午前は，英語「All English!」，数学「数学の発想は，未知の問題解決に通ず!?」，理科「化学実験を iPad で行う」に分かれていただき，一般科目のユニークな授業を体験してもらいました。

一般科目の後は，生産システム工学科「ミニロボコン～一日体験ロボコン～」，物質環境工学科「微生物と感光！－全く違った視点の２つの化学体験－」，社会基盤工学科「未来の社会をつくる技術」に分かれていただき，各学科の学習・実験等を体験してもらいました。

参加した中学生の皆さんからは「新鮮でとても楽しかった」，「授業の見方が変わった」，保護者の方からは「とてもよかった」，「楽しんで参観できた」など，大変ご好評いただきました。

今回参加した中学生の皆さんに，今度は「体験」ではなく，「新入生」としてお会いできることを心から願います。

（記：広報委員長　中村　和之）

～授業体験の様子～

北海道地区国立高等専門学校体育大会

平成29年度の北海道地区国立高等専門学校体育大会は，ラグビーを除く 13 種目において，７月７日(金)，８日(土)，９日(日)に，北海道に高専のある４地区で分散開催されました。函館高専を当番校とする種目は，ハンドボール，柔道，バレーボール男女，アーチェリーでした。以下に結果を示します。(個人戦は全国大会出場権獲得者，団体戦は成績)

男子団体成績

種　　目	結　果
陸上競技	優　勝
バスケットボール	２　位
バレーボール	４　位
ソフトテニス	３　位
卓　　球	４　位
柔　　道	優　勝
剣　　道	３　位
バドミントン	３　位
硬式野球	４　位
アーチェリー	２　位
テ　ニ　ス	４　位
サッカー	３　位
ハンドボール	優　勝

女子団体成績

種　　目	順　位
バスケットボール	２　位
バレーボール	優　勝
バドミントン	３　位

個人戦全国大会出場権獲得者

種　　目		氏　　名
陸上競技	男子１００Ｍ	中村昂太(2S-1)
	男子２００Ｍ	松本悠生(４Ｚ)
	男子５０００Ｍ	佐藤彼方(5S-E)
	男子100Mハードル	川村綺斗(3S-E)
	男子走高跳	横田朝陽(5S-E) 澤田奨汰(5S-M)
	男子走幅跳	澤田奨汰(5S-M)
	男子三段跳	横田朝陽(5S-E)
	男子砲丸投	小野彰仁(3S-M)
	男子円盤投	小野彰仁(3S-M)
	男子400Mリレー	中村昂太(2S-1) 松本悠生(４Ｚ) 川村綺斗(3S-E) 髙谷保久斗(１-４)
	女子１００Ｍ	小笠原由芽(３Ｚ)
	女子８００Ｍ	小笠原由芽(３Ｚ)
	女子砲丸投	西川菜々彩(５Ｚ)
柔　　道	男子個人60ｋｇ級	山下康一朗(5S-E)
	男子個人90ｋｇ級	二本柳裕仁(５Ｃ)
	女子個人48ｋｇ級	関　　桃絵(３Ｚ)
テ　ニ　ス	女子シングルス	杉山亜咲奈(４Ｃ)

なお，アーチェリーの個人戦（地区大会のみ）では，田中太（４Ｃ）さんが第２位に，矢野惣太(３Ｓ-M)さんが第８位に入りました。また，水泳では通信記録で以下の学生が全国大会出場を果たしました。

（記：学生主事　奥崎　真理子）

水泳全国大会出場権獲得者

種　　目	氏　　名
男子５０m自由形	宮崎　嵐(3S-E)
男子１００m自由形	山上晃輔(5S-M)
男子４００m自由形	小林洸太(１-３)
男子１００m背泳ぎ	宮崎　嵐(3S-E)
男子２００m平泳ぎ	岡田志友良(５Ｚ)
男子100mバタフライ	菊地夢作(2S-1) 鵜飼敬人(１-２)
女子５０m背泳ぎ	上田有梨那(５Ｃ)
女子50mバタフライ	上田有梨那(５Ｃ)

～地区大会の様子～
（上：アーチェリー
右上：ハンドボール
右下：バレーボール）

全国高等専門学校体育大会

第 52 回全国高等専門学校体育大会は，８月中旬，関東信越地区を当番校地区として開催されました。北海道の涼しい環境から猛暑の関東での試合ということで，移動距離や体感温度の高さでハンディは大きかったと思われますが，陸上，バレー女子，柔道，テニス女子個人，ハンドボール，水泳の各種目でそれぞれが健闘いたしました。以下に入賞者を示します。

（記：学生主事　奥崎　真理子）

全国大会入賞者一覧

種目		順位	氏名
陸上競技	男子走高跳	第２位	澤田奨汰(5S-M)
	女子砲丸投	第３位	西川菜々彩(５Ｚ)
柔道	女子個人48ｋｇ級	準優勝	関　桃絵(３Ｚ)

～全国大会壮行会の様子～

全国高等専門学校ラグビーフットボール大会北海道予選会

第 48 回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会北海道予選会が 10 月 7 日（土）に今年は旭川の東光スポーツ公園球技場で開催されました。例年通り旭川高専との代表決定戦が恵まれた天候のもと行われました。

今年はこれまでになく部員不足が深刻で，16名の部員しかいないためチームとして思うように練習できませんでした。そのような状況の中でも選手は今年も神戸での全国大会出場を目指して頑張ってきました。試合は前半から練習の成果を存分に発揮することができトライを重ね，結局60対５で勝利することができました。今年も神戸で行われる全国大会へ30年連続41回目の出場をします。今年の全国大会は，神戸の競技場の改修の影響で，例年とは日程が異なり，12月22日から開催されます。現在部員一同，一つでも多くの勝利をあげられるよう懸命に練習に励んでいます。

（記：ラグビー部顧問　浦田　清）

～ラグビー部一同～

思春期についての講演会

６月 30 日（金）に第１学年を対象にした「思春期についての講演会」が開催されました。当日は市立函館保健所長の山田隆良氏をお招きして，「エイズを含む性感染症とその予防」と題して講演していただきました。講演では，男女の性の特徴から始まり，性感染症の基本的な知識から予防法，性的マイノリティー（いわゆる LGBT）についてお話がありました。道南におけるエイズを初めとした性感染症の現状については学生の皆さんも驚いていた様子でした。性感染症は誰にでも起こりうることなので自分は関係ないと思わないこと，性感染症の予防にはパートナーを思いやる気持ちが大切であること，また，いわゆる LGBT の方に対して偏見を持たないことが大切であることを学びました。第１学年必修科目である「高専生のコミュニケーション入門」と内容が連動していたこともあり，学生は熱心に耳を傾けていました。

（記：学生委員　宮崎　真長）

～思春期についての講演会～

情報リテラシーに関する講演会

６月 30 日（金）に第２学年を対象にした「情報リテラシーに関する講演会」が開催されました。当日は函館中央警察署生活安全課少年係主任の助口 泰氏をお招きして，「個人情報流出の危険性について」と題して講演していただきました。講演では，DVD を視聴して，それに対して講師の方が解説をしてくださる形式でした。DVD の内容は SNS を通じて出会った異性によるストーカー被害，悪ふざけの写真を SNS 上に投稿した問題行動，個人情報の流失の危険性を伝えるものでしたが，犯罪の現場を知っている助口氏の話す内容はリアリティにあふれ，学生の皆さんは現実を目の当たりにしている様子でした。便利なコミュニケーションツールである SNS も使い方を誤ると自分の将来が閉ざされ，生命の危険につながりかねない事態につながることを，あらためて学んだ良い機会であった思います。

（記：学生委員　宮崎　真長）

～薬物乱用防止に関する講演会～

薬物乱用防止に関する講演会

７月 24 日（月）に第３学年を対象にした「薬物乱用防止に関する講演会」が開催されました。当日は函館中央警察署生活安全課少年係の小見山愛美氏をお招きして，「薬物はすべてを壊す」と題して講演していただきました。講演の中で，「薬物はすべてを壊す」というビデオの上映がありました。見栄や虚勢で先輩に勧められるまま危険ドラックに手を出してしまう青年，受験勉強中に友人の誘いに乗って覚醒剤を試した青年。一度でも薬物に手を出せばどんな悲惨な末路が待っているのか，その怖さについて学びました。最近ではインターネットを通じて薬物に手をそめてしまう人が少なくないそうです。学生の皆さんは真剣に講演に聴き入っており，薬物は絶対に手を出してはならないものと再認識できたことと思います。

（記：学生委員　宮崎　真長）

第２回　全校講話

10 月 27 日（金）午後，高専祭前夜祭に先立ち，第２回目の全校講話が実施されました。今回は，本校を昭和 58 年にご卒業された，土木工学科第 17 期生の飛島建設土木事業本部民間営業部部長の橋本斉様に「夢の実現に向けて～南極観測隊の体験を通して～」というタイトルで，南極地域観測隊として２回も活躍された経験についてお話しいただきました。この全校講話は，函館高専の授業ではなかなか得られない知見を，教職員と本校学生が一体となって得るための試みです。

本校ＯＢでもある橋本様の情熱に満ち溢れたお話しぶりに会場全体がぐいぐいと引き込まれていくようでした。講演後，学科の後輩にあたる渡辺専攻科長に伺うと，橋本様は野球部のエースで四番，学生会副会長も務められ，学生時代から常に華のある存在であったそうです。さもありなん。数十年後，この講演を聴いていた学生の１人が講演者となって，母校に新たな錦を飾ってほしいなと思いを馳せました。

（記：学生主事　奥崎　真理子）

～第2回　全校講話～

保護者懇談会

～授業参観～

～全体懇談会～

今年度の保護者懇談会は，11 月２日（木）に開催されました。クラス担任との個人懇談は終日にわたって行われ，300 名を超える保護者の皆様にご参加いただきました。

１･２時限目には各クラスで授業参観が行われ，普段学生がどのように勉強しているかをご覧いただきました。

３･４時限目には大講義室で全体懇談会が行われ，但野校長の挨拶の後，小林教務主事から本校での学習指導状況について，奥崎学生主事・総合学生支援センター長から生活指導・学生支援に関する取り組み状況について，説明がありました。

全体懇談会終了後，春潮寮で開催された寮生保護者懇談会にも多くの保護者の皆様に参加いただき，柳谷寮務主事から学生寮の取り組み内容等について説明がありました。

また，道内各地区及び青森地区においては，地区保護者懇談会が開催され，本校からは，教務主事，学生主事，寮務主事等が出席しました。

今年度の地区保護者懇談会は，９月９日（土）の石狩地区から始まり，11 月 25 日（土）の森・鹿部地区をもって終了しました。参加した保護者の皆様からは，貴重なご意見等が多く寄せられました。

（記：学生課）

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト 2017

高専ロボコン北海道地区大会運営を担当して

今年のロボコン 2017 北海道地区大会は，本校が運営を担当し，10 月 22 日(日)に函館アリーナで開催されました。第 30 回という節目の大会で，会場も学外施設でしたので，競技では優勝を目指すとともに，イベントとして盛り上げるため，運営面でも全校を挙げた実施体制で臨むことになり，7 月にそのための実行委員会が立ち上がりました。

今回のミッションのうち，最大は 1,000 人規模の観客動員で，従来の往復ハガキによる応募方法だけでは達成が困難との判断から，Web（QR コード）申込みを併用し，市内および近郊の小中学校に依頼をして，すべての児童・生徒に観覧募集のチラシを個別配付しました。また，日頃お世話をいただく本校地域連携協力会やクリエイティブネットワークの会員企業様をはじめ，関係機関に対しての招待枠を広げました。さらに，集客方法の一環として，小中学生を対象としたバックヤードツアーも企画しました。

また，大会を盛り上げるための応援体制を考慮した会場レイアウトでは，NHK サイドからの提示内容をもとに，こちらからも積極的な提案を行い，会場スタッフや運営アドバイザーとも検討や調整を繰り返しました。その結果，いわゆる雛壇を前方だけではなく左右の応援席の後方にも設置してもらうことで，観戦効果の向上に繋げました。

選手が気持ちよく競技ができ，観客の皆さんも一緒に盛り上がれるようにと，全員参加を目指す運営体制で臨み，学生と教職員が一体となった対応を行うことで，会場設営から後片付けまでの業務もスムーズに進みました。

Web 応募の影響がどう出るか，また国政選挙とも重なり，当日は開演時間近くになっても入場者の勢いが弱く非常に心配しましたが，競技の開始時刻には観客席がほぼ埋まる状態でした。結局，関係スタッフ等も含めた参加者総数は 1,269 名となり，大会としては，大きなトラブルもなく，成功裡に終えることができました。

今回の大会運営を通じて，企画面では新しい取り組みができたこと，また実施面では学内の協力体制が得られたことは非常に大きな収穫で，今後の活動にも活かしたいと考えています。

最後に，ご協力をいただきました多くの皆様のご尽力に，この場を借りて感謝申し上げます。

（記：ロボコン 2017 北海道地区大会実行委員会委員長　浜　克己）

～会場は函館アリーナでした～

～バックヤードツアーの様子～

高専ロボコン北海道地区大会　競技委員長を経験して

10 月 22 日（日）に高専ロボコン北海道地区大会が函館アリーナで開催されました。今回大会を運営するために教職員はもちろん,学生の皆様に多大なるご協力をいただきました。協力してくださいました皆様,心より感謝いたします。

さて，第 30 回記念大会に私は競技委員長という立場で参加しました。競技委員長は競技全体の責任者です。この「競技全体」の中には,「開演時刻になってもなかなかお客様が集まらずハラハラしている実況席ディレクターをなだめる」というのも含まれました。

競技委員長を経験して大きな驚きが２つありました。一つ目の驚きは副審選びに関してです。当初，副審選びは簡単なやっつけ仕事とタカをくくっていましたが,意外とすんなりは行きませんでした。裏話ですが,副審は地域の大学に進学したロボコン経験者から選ぶよう NHK から依頼されています。ところが本校のロボコン経験者の大多数は卒業後すぐに社会で活躍しています。進学する人も居ないわけではありませんが進学先は道内とは限りません。つまり,「副審を頼める人がいないじゃないかぁ」ってことです。他の高専ではロボコン経験者だけで見ても毎年１～２名が地域の大学に進学しているので,本校はユニークな学校と言えます。まさか，こんなところに競技準備の大変さが潜んでいるとは夢にも思っていませんでした。（ただ個人的には,ロボコン経験者の大多数が進学を選ぶのではなく卒業後すぐに社会での活躍を望むことが本校の欠点だとは思っていません。）

～手早く撤収作業をする学生～

二つ目の驚きは学生ボランティアスタッフの動きの良さです。大会終了後，当然，会場を元通りにして返却しなくてはなりません。この「元通り」，結構大変です。本校体育館の３倍ほどの面積を養生シートで覆い，その上に工作スペース，試走場，計量・計測スペース，８チーム分のピット，競技フィールド,観客席用仮設ステージ,観客席が設置されていました。「学生ボランティアスタッフは何があっても 18 時には帰したいから，残りは教員がやって・・・終了は 22 時頃かな」と予想していました。ところが，学生スタッフの予想以上にキビキビとした動きで 18 時前には殆どの作業が終了していました。５SM の学生をリーダーとして,グループワークとチームワークがうまく機能した結果だと思います。まさか，本校学生がここまでの働きをするとは夢にも思ってもいませんでした。

というわけで今大会は,大会結果も良かったし学生の素晴らしさにも触れることができたしで，非常に満足でした。

（記：ロボコン 2017 北海道地区大会実行委員会競技委員長
中村　尚彦）

～4高専8チームが競い合いました～

Ａチーム指導教員から

去る 10 月 22 日(日)，函館アリーナにてロボットコンテスト北海道地区大会が開催されました。今年度は『大江戸ロボット忍法帳』という，各チーム２台のロボットが相手のロボットと本陣に付いている風船（各ロボットに５個ずつ，本陣に 10 個）を割り合うというロボットのぶつかり合いが発生する対戦ものでした。顧問として『勝つためにどうすればいいか』を考え，今年度の課題で重要となる『戦略と戦術』について指導しました。そして保護者，教職員の皆様，そして地域連携協力会の皆様にたくさんのご協力をいただき，その結果，見事Ｂチームが準優勝，審査員推薦で全国大会に出場することができました。

さて，私が監督をしていたＡチームは３年生が中心のチームで，大会結果はマシントラブルが発生し一回戦敗退となりました。本来の力を発揮できず非常に悔しいです。今年は例年よりも早くロボットを製作することができ，その後の『戦略と戦術』，『情報戦』を踏まえて大会に臨みました。前日のテストラン時に敵ロボットの情報を集め機能を解析し，閉場後に学校に戻って２時間ほど作戦会議を行いました。また，自分たちのロボットはテストラン時に『全ての機能』は見せましたが，それを用いた『技』は見せないようにしていました。この情報戦は大成功したのですが，そもそものロボットが動かなかったという結果でした。もしマシントラブルさえなければ『函館』対『函館』の決勝戦ができたと自信を持って言えます。Ａチームのこの敗北と悔しさは今後の彼らをきっと強くしてくれるはずです。次年度こそ北海道地区大会優勝を成し遂げてくれると信じています。

最後になりましたが，日頃よりロボット研究会をご支援くださった多くの皆様，当日会場で応援してくださった皆様，心より御礼申し上げます。

（記：函館高専Ａチーム　指導教員　鈴木　学）

～函館高専Aチーム：
ロボット名
「函館海(ハコダテシィー)」～

～函館高専Bチーム：
ロボット名
「函館三景(ハコダテサンケイ)」～

Ｂチーム指導教員から

はじめに，地区大会の運営に協力してくれた学生の皆さん，そして応援に駆けつけてくださった皆様に心よりお礼申し上げます。大会，競技内容についてはＡチームの鈴木先生がまとめてくれていますので，ここではＢチームの戦いぶりについてご報告します。Ｂチームは決勝戦まで勝ち進み，惜しくも優勝は逃しましたが，審査員推薦をいただき全国大会への出場権を勝ち取ることができました。

１回戦は，試合開始直後に飛び道具が見事的中し，さらに近接攻撃で畳み掛けて１分足らずで試合を決める快勝でした。この試合ぶりが審査員と応援に駆けつけてくれた地元函館の皆さんの心をガッチリ掴みました！同じく１回戦に臨んだＡチームは鈴木先生が記しているように残念な結果となってしまいました。ともに勝ち進んで決勝で戦うつもりだったＡチームが初戦で敗退したことで，Ｂチームは地元の期待をすべて背負うことになりました。２年生主体のＢチームには荷が重いか，とも感じましたが，それは私の杞憂でした。当日まで繰り返した練習の中で「できる」という自信を培ってきた彼らは，いつも通りの手順で試合前の準備をこなし，準決勝に臨みました。ただし，大会の前日には「風船をロボットにつけるクリップが無い！！」ことが発覚して焦っていたのは秘密です。準決勝では試合時間こそ１分以内とはいきませんでしたが，落ち着いた試合運びで強豪・旭川高専のＢチームに勝利し，決勝戦に駒を進めました。決勝戦は同じく旭川高専のＡチームとの対戦となりました。相手の防御を崩しきれず試合には敗れましたが，高専ロボコン「祝 30 回！！」をアピールしながら果敢に風船を割ろうとする姿や，３台対１台の劣勢でも的確な守備を見せた函館Ｂチームの戦いぶりに多くの拍手が送られていました。

最後に，地区大会に向けて十分な実戦練習を重ねるための環境づくりにご支援いただいた函館高専地域連携協力会様に心よりお礼申し上げます。

（記：函館高専Ｂチーム　指導教員　川合　政人）

～ロボット研究会の皆さん，お疲れ様でした～

高専祭「Go!Go!」特集

平成 29 年 10 月 27 日（金）・28 日（土）・29 日（日）の３日間，「平成 29 年度　第 55 回　高専祭」を開催しました。今年度も多くの方にご来場いただき，各学科の展示や模擬店，ステージなど，学生の工夫を凝らした出し物に大変ご好評いただきました。

今回の高専祭の思い出を，各学科・コースの代表学生１名に寄稿していただきました。

生産システム工学科　機械コース

高専祭お疲れ様でした。生産システムの学科展示総括を務めました，４年機械の向喬平です。

生産システム工学科になってから今年で２回目の学科展示でした。今年は機械・電気・情報どのコースも今までには無い新しい企画に挑戦し，学内外から好評を頂き，大盛況のうちに幕を閉じることが出来ました。これは各リーダーを中心に４年生の頑強な意志と，２年生３年生の有志，先生方，技術教育支援センターの方々のご協力があったからです。本当にお疲れ様でした。

学科展示の総括は想像以上に大変な仕事でしたが，皆が同じ目標に向かって協力しあうと，こんなにも大きな成果を挙げることが出来るのだと実感しました。私は勿論ですが皆さんも大きな喜びに包まれながら達成感を味わったことと思います。是非来年以降もこの感覚を皆さんで味わって欲しいです。

今年の準備期間は３週間程しかありませんでしたが，来年は反省を踏まえ学科展示がより良く発展していくことを願っています。

（記：第４学年生産システム工学科 機械コース　向 喬平）

～生産機械コース　学科展示の様子～

生産システム工学科　電気電子コース

～生産電気電子コース　学科展示の様子～

電気電子コースの展示では，二つの履修コースを同時に体験ができるよう，エネラボと，はんだ付け体験（小学生以下はブレッドボード）をメインとし，２年生の創造実験で作成した，LED を使用したゲームやプラネタリウムも披露しました。

放電装置や温度差，自転車発電を体験できるエネラボの展示は毎年人気が高く，今年は特に風を団扇で発生させて発電する体験が好評でした。はんだ付け体験は，中学生だけでなく，腕を披露したいお父さんや，初めてやってみようとするお母さんなど父母等にも人気があり，プレゼントに用意していた手作りの電子オルゴール 200 個は高専祭が終了する２時間前には全てなくなりました。ブレッドボードは実際にオルゴールの回路を組み音が出るところを体験していただきとても喜ばれました。学科展示は仕事が想像よりはるかに多く波瀾万丈でしたが，皆様のご協力のおかげで無事に成功することができました。本当にありがとうございました。

（記：第４学年生産システム工学科 電気電子コース　福田 輝）

生産システム工学科　情報コース

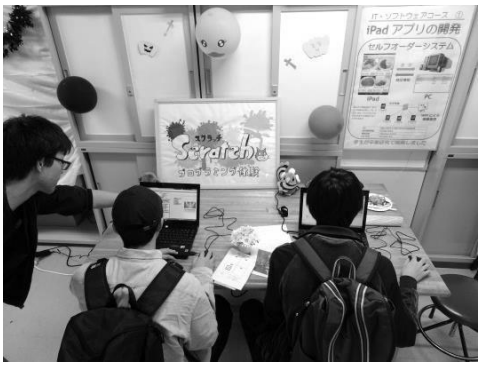
今年，生産システム工学科情報コースでは，主に４つのブースに分けて展示を行いました。“scratch でのプログラミング体験”,“Greenfoot で開発したゲーム”,“OpenGL を使用したゲーム”,そして“kinect センサを使ったモーションキャプチャ”の展示です。また，来てくださったお客様には，キーボードを模したお菓子をプレゼントさせていただいたり，情報コースでの研究内容の展示なども行いました。

様々な年齢の方にも親しみやすいモーションキャプチャだけでなく，ゲーム等の他展示でも，小さなお子様からお年寄りまで多くの方に楽しんでいただけたかと思います。

企画から運営まで全てを学生達で作り上げた展示は，苦労した甲斐もあり，お客様だけではなく私たち学生も楽しんで参加できました。

最後に，来てくださったお客様，ご協力くださった先生方，そして，協力して展示を作り上げてくれたクラスの皆さん，ありがとうございました！

（記：第４学年生産システム工学科 情報コース　田中 優海）



～生産情報コース　学科展示の様子～

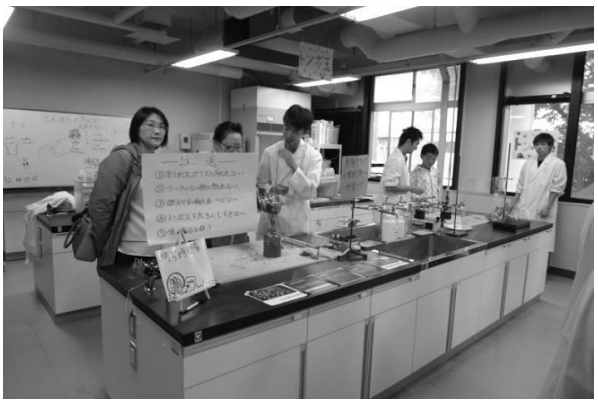
物質環境工学科

今年の物質環境工学科の学科展示は例年と同じように６つのブースを展開して行いました。

夏休み明けから準備を始め，少しでも楽しいと思ってもらえることをやろうとそれぞれの班が工夫をして予備実験などの準備をしている姿が多く見られました。高専祭当日はたくさんの人に足を運んでいただき，楽しんで帰ってもらえたのではないかと思います。振り返ると，直前までバタバタしながらもクラス全員で協力して乗り切った高専祭の学科展示は，とても大きな充実感を得ることができました。

最後にご協力いただいた先生方，クラスのみんな，手伝いに来てくれた２C,３C の学生の皆さんありがとうございました。

（記：第４学年物質環境工学科　上関 大貴）



～物質環境工学科　学科展示の様子～

社会基盤工学科

今年の社会基盤の学科展示はたくさんの方が来て，例年以上の盛り上がりの中終わりました。今年は去年よりも多くの部屋を使い，水理実験，コンクリートストラップ，VR体験，土質実験，作品展示といった，バラエティに富んだ学科展示を行うことができました。

他にも，クレーン車のラジコンを使ってお菓子を取るゲーム等も行いましたが，そちらは子供たちに大人気でした。

また，毎年行っているスタンプラリーもたくさんの人が参加し「ＣＩＶＩＬ」の文字を完成させながら，学科展示を回っていただきました。今までこのような，クラスがまとまって準備して行う行事はなかったので，うまくいかないところもありましたが，来てくださった方たちが楽しんでいる様子を見ると，やってよかったなと思いました。最後になりますが，ご協力してくださった先生方，手伝ってくれた皆さん，本当にありがとうございました。

（記：第４学年社会基盤工学科　今渕 達）

～社会基盤工学科　学科展示の様子～

ホームカミングデー2017

10 月 28 日（土）に開催された高専祭に併せて，「函館高専ホームカミングデー2017～お帰りなさい『戸倉が丘』のキャンパスへ！～」を開催しました。晴天に恵まれて，ご夫婦連れの方をはじめ，多くの卒業生の皆様にご来場いただきました。

当日は，但野校長のウェルカム挨拶，学科･専攻科の概要と研究活動状況を紹介する「学校説明会」及び学科長が案内する「高専祭･学科展示見学」を実施するとともに，写真パネル展示，定期刊行物バックナンバー展示及び記録映像放映などの「懐かしの展示コーナー」を開きました。

また，併せて同窓会設立 50 周年記念講演会が行われ，第一部で葛西憲之弘前市長（土木工学科一期生）の「青函圏と新幹線の果たす役割～地方創生をめざして～」と題した記念講演が，第二部で「青函トンネルと高専技術者のたたかい！」と題して竹内雄三氏，佐々木幹夫氏，秋田勝次氏，佐々木裕氏，古川裕氏ら５名の土木工学科卒業生によるパネルディスカッションが行われ，多くの卒業生の方が参加されました。

記念講演会に参加する卒業生同士の交流や，高専祭の開催中であり，懐かしい抽選ウチワを購入する卒業生の方や現役学生に話しかける方もおられるなど，卒業生の方々は，同窓生との再会を楽しむとともに現役学生との交流を深めていました。

（記：副校長（総務担当）　中村　和之）

～卒業生と在校生の交流～

～記念講演会の様子～

ビブリオバトル！

本校の図書委員活動の一つとして，今年も高専祭の間，「ビブリオバトル」を開催することができました。「ビブリオバトル」とは，バトラー（発表者）がおすすめ本を持ち合い，言葉と身体のみでのプレゼンテーションを与えられた時間内で行い，観客が一番読みたくなる本を競うバトルです。今年は，学生５名と教員１名の計６名のバトラーが集まりました。教員の１名は，一般人文系教授の奥平理先生で，ご自分が出演されたNHK「ブラタモリ」の本の紹介で，観客も盛り上がりました。

～大会の様子～

競技の結果は投票で行われ，僅差の勝負となりましたが，優勝は「儚い羊たちの祝宴」を紹介した大和楓さん（４Ｓ-Ｍ），準優勝は「100万回生きたねこ」を紹介した藤田栄太君（２Ｃ）でした。他のバトラー，鵜飼敬人君（1-2，紹介本「ソードアート・オンライン」），福原龍馬君（２Ｓ-１，紹介本「民王」），桃野航太郎君（２Ｚ，紹介本「野良犬トビーの愛すべき転生」）もわずかの差で入賞を逃す結果となりました。

（記：図書館長　新田一夫）

～出場したバトラーの皆さん～

PROJECT-ZERO

第55回の高専祭２日目に，第13回函館高専学生課題研究コンペティション「PROJECT-ZERO（プロゼロ）」が大講義室で開催されました。

今年の発表は，①英語プレコンチーム部門，②英語プレコンシングル部門，③ソーラーカヌー愛好会，④5S-J松下君，⑤新聞局の3団体2個人により競われました。個々の発表の質の向上はもとより，第１回目から企画運営にかかわってきた新聞局による実行委員会の運営体制（プログラム作成，当日の大会進行，審査員教員への協力依頼，集計発表等）がしっかりとなされており，函館高専生の「進化」と「深化」を裏付ける催しになったのではないでしょうか。

～大会の様子～

審査の結果，①が最優秀賞という評価でしたが，審査委員長の中村和之先生の「僅差」という講評に，審査委員の先生方がそれぞれの発表を高く評価したことが窺えました。来年度のプロゼロの更なる「進化」と「深化」を期待したいと思います。

（記：学生主事　奥崎　真理子）

～集合写真～

北海道地区高等専門学校 英語プレゼンテーションコンテスト

Every year in the fall, the regional division of the annual English presentation contest for colleges of technology takes place in one of the four Hokkaido colleges. Last year, we had the contest in Hakodate, which was very convenient. This year, the train ride to Asahikawa took 5 hours.

From this year on, the format of each speech changed. Last year, each speech had to be about 7-minute long, without any visual aid. This year, we adopted a single-person presentation format, using a PowerPoint presentation. The topics were free but had to be of general interest. The important points were the contents, the delivery and the general quality of English.

This year, only one student, Minami Imamoto from 5C, participated. Minami created a presentation based on a great idea: what if we all stopped eating meat once a week? This movement is called Meatless Monday and is practiced in many countries all over the world. She provided a great organized demonstration, with data and hard facts. She also remembered her 5-minute presentation perfectly and had a lot of confidence on stage. Personally, I think she did extremely well, but the judges did not.

The general level was quite high this year, especially in the variety of the topics. A total of 4 students presented and most topics had to do with society and science. Unfortunately, this year we could not get a place to go to the national contest, but this was a great experience both for Minami and I and I am looking forward to the next contest.

（記：プレコン指導教員 タケ・デイビッド）

～ 日本語訳概略 ～

毎年秋に，道内４高専の英語プレゼンテーションコンテストが開催されます。去年は函館高専で開催され，今年は旭川高専で開催されました。

今年度から，シングル部門の発表形式が変更され，パワーポイントを用いることができるようになりました。題材は自由ですが，皆が関心のあるものでなくてはなりません。大会では，スピーチの内容，発音，話し方などが審査されます。

本校からは，５年物質環境工学科の今本南さんが参加しました。

今本さんは「Meatless Monday(肉無し月曜日)」と呼ばれている取り組みに基づいたすばらしい発表を行いましたが，今年度は参加者のレベルが非常に高く，残念ながら全国出場とはなりませんでした。

今年度の大会は私と今本さんにとって大変よい経験となりました。来年度の大会を，とても楽しみにしています。

【日本語訳】
広報委員会
委員長 中村 和之

～英語プレコン記念撮影～

第 28 回全国高専 プログラミングコンテスト

本年度も 10 月８日（日）～９日（月）に山口県周南市で第 28 回全国高専プログラミングコンテストが開催されました。本校からは生産システム工学科５年の安部龍馬さん，織田智矢さん，布施詠政さんの３名が１チームとして競技部門に参加しました。

競技部門ではパズルのピースが与えられ，如何に早く完成させることができるかという単純明快なルールのもと，計算の速さと技術の高さを競い合いました。言い換えれば，画像認識などによりピースの形状を如何に正確に取得できるか，最適な組合せを如何に早く見つけることができるかなどが鍵となった部門です。就活や試験などで忙しく準備が不十分なこともあり，本大会は残念な結果になってしまいましたが，様々な課題を見つけることができたため，得るものは多かったのではないかと思います。

本大会は競技部門の他に，事前に作品出展を行う課題部門・自由部門があり，プログラミングに関する幅広い能力を競う場となっています。来年度は他部門へも参加できるように頑張ってもらいたいと思うとともに，私自身も出来得る限りのサポートをして参ります。

（記：プロコン指導教員　藤田 宜久）

～大会の様子(右が本校チーム)～

春 潮 寮 通 信 ！

春潮寮スポーツ大会・薄暮祭

平成 29 年９月 30 日（土），「春潮寮スポーツ大会・薄暮祭」が開催されました。スポーツ大会では，バスケットボール，バレーボール，ドッジボールが行われ，男女ともに学年対抗で試合が行われました。男子は３年生が全種目全勝の完全優勝を達成しました。女子は４年生が２種目で優勝していました。大きな怪我もなく，無事にスポーツ大会を終えることができました。

夕方からは寮の玄関前で薄暮祭が行われました。雨や強い風が心配されましたが，無事に開催することができ，寮生達は焼肉や焼鳥，焼きそば，ホタテなどを堪能していました。

寮祭

平成 29 年 11 月 11 日（土）に「寮祭」が開催されました。例年と同じく，１年男子学生や上級生による寸劇，１年女子学生のダンス，それからカラオケ，抽選会が行われました。カラオケでは会場も一緒に合唱するなど大いに盛り上がっていました。抽選会ではお菓子やジュースだけではなく，ワイヤレスイヤホンやスピーカーなどの豪華な景品も用意され，大きな歓声が上がっていました。

今年度は一関高専からの交換寮生２名に加えて，シンガポールからの短期研修生４名が寮祭に参加しましたが，彼らにとっても楽しく，良い経験になったことと思います。

～寮祭の様子～

～五島軒での講習の様子～

テーブルマナー講習会

平成 29 年 11 月 15 日（水），五島軒本店において４年生を対象とした「テーブルマナー講習会」が開催されました。

はじめに五島軒の講師の方から，ナイフ・フォークの使い方とフルコース料理のテーブルマナーについて説明がありました。その後，学生たちは実際にフランス料理のフルコースを食べながら，教わったマナーを確認していました。

当日のメニューは，オードブル盛合せ（生ハム，野菜と海藻のフリッタータ，スモークサーモンとポテトサラダ），とうもろこしのポタージュスープ，海の幸のグリーンソース（サーモン，帆立貝，海老），ローストポーク（きのこソース，温野菜添え），野菜サラダ盛合せ，チョコレートブラウニー，珈琲，パン・バターと豪華な内容でした。

学生の皆さんは慣れないナイフとフォークを使い，緊張して食事をしていましたが，料理もおいしく，大変勉強になったとの感想が聞かれていました。

（記：寮務主事　柳谷　俊一）

キャリアセンター特集

本校では，これまでも学生のキャリア形成支援，キャリア教育の充実，就職・進学の進路支援等の推進に努めてきましたが，担当業務の集約化や機能化，さらには出口を見据えての学外対応を強化するため，今年度キャリアセンターとして独立した組織となりました。

その主たる役割は，個々の学生に対して，明確な目的意識を持って日々の学生生活に取り組む姿勢や社会人として自立していくことのできる能力を養成し，将来の人生設計に至る動機付けや方向付けのお手伝いをすることです。

キャリアセンターでは，従来散発的に実施してきたさまざまな取り組みを，５年間の一貫したキャリア教育として系統立て，各学年で意識させる内容を示し，毎年目標設定と振り返りを行わせることで，進路決定とともに最終的な「自己実現」の達成に繋がる指導を目指します。

～平成 29 年度キャリアデザインサポート DAY～

～平成 28 年度合同企業説明会～

来春卒業予定者の進路状況は，人手不足を背景とした売り手市場が続いていることもあり，多くの学生が希望する会社から内定をいただく好調ぶりですが，常にその状況が保証される訳ではありませんし，進学を含め，あくまでも通過点であり，実際にはその後の十分な対応能力が重要となります。そのため，低学年からの継続したキャリア教育の中で，自分の将来をデザインする能力に加え，情報を収集する能力，意思決定を行う能力，人間関係を構築する能力などの「生きる力」をしっかり身に付ける必要があります。

その対応として，コミュニケーションや社会人基礎力等の授業科目とは別に，現在教務委員会と連携して，キャリア設計指導案を作成しています。この中では，学生が自己を分析し，その結果から進むべき道を考え，計画を立てる「キャリアデザイン教育」に重点をおき，その意識づけを行うとともに，達成のプロセスや成果を一過性のものとして終わらせずに蓄積すること，すなわちポートフォリオの作成も重視して，現在試行的に行っています。これを活用して，教員の進路指導に役立てたり，学生自らが獲得した能力を認識し，自信を深められるようにと考えています。

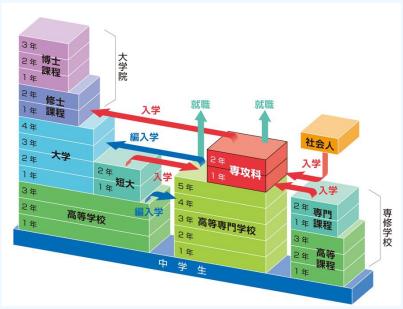
このように，キャリアセンターでは，これまで通りの各種イベントの実施や進路相談の対応に加え，今後は「目標管理によるキャリアデザイン教育」を強化していきたいと考えています。

（記：キャリアセンター長　浜　克己）

函館高専から大学進学を目指す君へ

函館工業高等専門学校
キャリアセンター

中学校卒業後のおもな選択肢　高校 or 高専？



- 中学校卒業後は、多くの生徒さんが高等学校へ進学します
- 高等学校卒業後は、企業等へ就職するか、大学・短大等へ進学するでしょう
- 高専卒業後も、企業等へ就職するか、大学等へ編入学します

- 高専卒業後に就職した場合、大学卒業生と同様な技術職に就くことが多いです
- 高専卒業後、より高度な技術の修得やより深い研究をするために進学の道があります
- 多くの国立大学が３年次編入を受け入れています

- 函館高専での最近の進学者数は卒業生の約30%です

高専から大学へ　最近の大学編入学実績

※平成29年10月31日現在

	専攻科		技科大		北海道					東北					関東							中部						その他							
	函館高専専攻科	東京高専専攻科	長岡技術科学大学	豊橋技術科学大学	北海道大学	公立はこだて未来大学	室蘭工業大学	北見工業大学	北海道教育大学	弘前大学	岩手大学	東北大学	秋田大学	山形大学	筑波大学	千葉大学	群馬大学	東京農工大学	東京工業大学	首都大学東京	電気通信大学	信州大学	山梨大学	名古屋大学	岐阜大学	金沢大学	福井大学	京都大学	大阪大学	神戸大学	和歌山大学	岡山大学	九州工業大学	琉球大学	その他・公立私立大
H29※	14		2	10	5	1	3			1						1	1	1	1							1			1				1		
H28	18		5	8	5	2	4	2	1						1	1		1													1			
H27	21		4	6	5	1	8			1					1	1		1			1	2	1										1	1
H26	16		3	12	1	4	4								1	1		1						1	2	1				1				
H25	23		7	9	1	2	2		1																							1		
H24	28	1	8	8	5	5	4				1		2			1						1												
H23	20		4	10	3	1	5	2					3					1												1				
H22	28		7	5	2	1	2	2	1		1	1	2	2	1	1		1		1					1									
H21	23		11	13	4	4	6	1		2	2	2	2	2	1											1	1							2

中学校 → 高専 → 大学　のメリット

①大学入試センター試験（大学入学共通テスト）がない

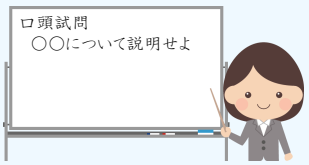
- 編入学試験は大学入試センター試験とは異なり、５科目は要りません
- 低学年から毎日しっかり勉強していると、特別な受験勉強の負担が軽くても進学できます

②国立大学への進学者が多い

- ほとんどの学生が国立大学か高専専攻科へ進学します
- 私立大学進学と比べ、入学金・授業料等の金銭的負担が非常に軽減されます

③推薦入試がある

- 推薦入試制度を採用している大学が多くあります
- 在学中の成績により、口頭試問や面接のみで大学生になることも可能です



④学力試験を受験する場合は複数校受験が可能

- 学力試験の日程は大学によってさまざまですので、日程が重ならない限り複数校受験が可能です

国際交流センター特集

シンガポール リパブリック・ポリテクニックの学生との交流

９月 18 日（月）～23 日（土）の日程で，シンガポール Republic Polytechnic の School of Applied Science に所属する学生 24 名と引率の２名の教員が来函し，本校において国際交流プログラムを実施しました。18 日（月）は台風のため函館到着が大幅に遅れ，19 日（火）からのプログラム開始となりました。

今回のプログラムでは，人工イクラをテーマとした実験を行い，英語によるコミュニケーションを通じて共同作業を行うことにより，国際交流や異文化理解への関心を高めるきっかけを作ることを目的としています。参加した本校学生（本科２年生～専攻科生）は，慣れない英会話に戸惑いながらもコミュニケーションを取り，最終的には一緒に実験内容のプレゼンテーションを行うまでに至り，達成感を得られたようです。

また，日本文化体験として茶道や餅つきを体験したほか，市内企業の工場見学や大沼国定公園・函館市内を観光するなど，シンガポールの学生は函館での滞在を楽しんでいました。

なおこの時の様子については，本校のホームページに紹介されています。ぜひご覧ください。また広報委員会の所轄によるフェイスブックにも，４年生産システム工学科の古川君の英語による参加記が投稿されていますので，あわせてご覧ください。

（記：国際交流センター長　中村　和之）

～茶道体験の様子～

～共同実験の様子～

～シンガポール リパブリック・ポリテクニックの皆さん～

函館高専地域連携協力会コーナー

「函館高専地域連携協力会」は本校が取組む活動を支援し，地域連携事業の促進を図り，地域社会の発展に寄与することを目的に設立された団体で，地元函館を中心とした様々な企業が加盟し，日々尽力していただいています。こちらのコーナーでは，会員企業を定期的にご紹介いたします。

会員企業には本校 OB が所属している企業も多くあります。ぜひこのコーナーの企業紹介をご覧いただき，地元企業に興味をもっていただければ幸いです。

企業名：株式会社クレアンスメアード函館

①設立年月日：平成 28 年 2 月 26 日

②代表者氏名：代表取締役　菊池　一夫

③企業紹介

平成 28 年に函館に進出した東京に本部を構える当社。主な事業はポイントサービスを中心としたデジタルマーケティング事業を展開しています。100%社内開発でスマホアプリ・AI・MA・IoT 関連システムなどのトレンド技術を取り入れ，新マーケットの創造にも力を入れています。チャレンジ精神旺盛，好奇心旺盛なそこのあなた‼ ぜひ一度，当社の会社説明会やインターンシップにお越し下さい。おまちしております。

企業名：株式会社 近藤商会

①設立年月日：昭和 22 年 6 月 19 日

②代表者氏名：代表取締役社長　相川 良夫

③企業紹介

業務内容：◆オフィス等の内装設計・施工　◆AV/IT システムの構築

◆ASKUL（東北以北で売上 No,1）※平成 29 年 10 月現在

『働き方改革は，オフィスの環境づくりから』」

～IT と内装のプロが働き方を変えます！～

平成 29 年 6 月 19 日に創立 70 周年を迎えた歴史ある企業です。函館（本店）の他，室蘭・苫小牧・札幌に支店があり，創立 100 周年に向けて社員一同元気に成長し続けております。前向きに新しいことに取り組む方を求めています。

平成 28 年に函館本店をリノベーションし，最新の働き方ができるオフィスとなりました。このオフィスは『創造性を高める働き方を誘発するオフィス』が受賞する**「第 30 回日経ニューオフィス賞（北海道経済産業局長賞）」**に選ばれました。

随時社内見学を受け付けておりますので，是非一度お越しください。

企業名：株式会社　菅製作所

①設立年月日：昭和 43 年 12 月 6 日

②代表者氏名：代表取締役社長　菅　育正

③企業紹介

北海道で唯一「真空」技術を応用した各種装置等を設計・製造・販売しているメーカーです。

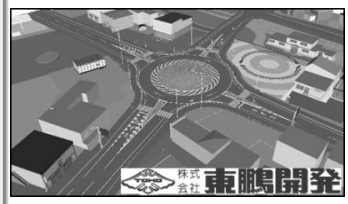
平成 27 年には，光放出電子顕微鏡（ＰＥＥＭ）で，「第 6 回ものづくり日本大賞　優秀賞」を受賞致しました。

お客様の「こうしたい」，「こうだったらいいな」を「創造アシスタント企業」として解決するため，日々技術を磨いています。

「函館から世界に向けてテイクオフ」新しい技術に向かって，最先端技術を一緒に発信しませんか？

企業名：株式会社　高　木　組
①設立年月日：昭和 17 年 12 月 1 日
②代表者氏名：代表取締役社長　中田　俊一郎
③企業紹介
　環境都市工学科平成 12 年卒業の加藤洋人です。
現在，北海道縦貫自動車道の工事で監理技術者を務めています。
弊社は，函館や渡島・檜山管内の公共工事受注機会が多く，仕事を進めるうえでいつも函館高専卒業生のネットワークに助けられています。今，私が責任者を務める工事では「働きやすい環境」を構築するため最先端技術を導入した効率化に取り組んでいます。
私と一緒に，若い社員のチカラを活かした技術推進に取り組みませんか？

企業名：株式会社 東鵬開発
①設立年月日：昭和 56 年 5 月 1 日
②代表者氏名：久保 三雄
③企業紹介



　当社は，函館を拠点として営業する，土木関係の調査・設計コンサルタントです。災害王国と呼ばれる北海道で大自然と共存するための技術手段や，更新が必要な既存施設の維持手法を身に付けた技術者の育成に努めております。
　過去３年間では合計１２名の積極的採用を図りながら，誰一人として離脱することなく，日々地域のために惜しみない努力を継続できていることは，私たちにとっての「プライド」となりつつあります。函館高専の卒業生が半数以上在籍する当社での活躍をお待ちしております。

企業名：みぞぐち事業株式会社
①設立年月日：昭和 31 年 7 月
②代表者氏名：佐々木　義勝
③企業紹介
　みぞぐち事業株式会社は，**「人・物・心のネットワーク」**を基本理念として，建設・環境事業等を通じお客様はもちろん，社会のサポーター役として全力を注ぎこんできた会社です。温暖化など環境の悪化が問題となっている現在，次世代の子供たちが安心して暮らすことが出来る生活環境，地球環境を築くために，**「よりハイレベルな技術力・最新情報」**の提供に努め， 新時代が求める理想集団として広く地域社会に貢献すべく全力で邁進しております。

校訓

汝が夢を持て
大志を抱け
力強かれ

学校だより　第201号
発行　函館工業高等専門学校広報委員会
〒042-8501　函館市戸倉町14番1号
TEL：0138-59-6333　FAX：0138-59-6330